

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(2日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	福知山市	代表者名	大橋一夫
担当者部署	市長公室大学政策課	連絡先電話番号	0773-24-7039
担当者役職	主査	担当者氏名	川村杏子
住所	620-8501 京都府福知山市字内記13番地の1		

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤井 靖史
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	「産官学連携コンソーシアム」の事例をそれぞれの立場や役割、成果も含めて丁寧にご教示いただいた。何より、行政の広域連携事業で、令和4年1月21日に会津で策定された指針は、本市を含めた広域連携をやっている自治体にとっては、業務の運営相互支援も含めて、とても参考になるものであった。令和4年度に大学を活用した広域連携事業において、計画を策定する予定であることから、今回教えていただいた事例を活用していきたいと考えている。
アドバイザーへの要望事項	特になし

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2022年1月25日	9時50分	12時00分	10	120
3-2. 派遣場所	会場名	オンライン		最寄駅	
	所在地			最寄駅からの交通手段	
	派遣形態	講演(オンライン)			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	福知山市役所職員、福知山公立大学職員	25人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	産官学連携コンソーシアムは、組織体制や取り組みの指針、またプロジェクトの具体化が課題である。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	今回の助言を受けて、プロジェクトの具体化の方法や組織体制づくりの土壌を知ることができ、来年度の産官学コンソーシアム設立に向けて展開する。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	産官学コンソーシアムを設立することが目的ではなく、プロジェクトベースで必要性があるものを具体化し実施していくことにより、産官学コンソーシアムを設立するという重要性や最新の事例に関するアドバイスをいただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	広域連携事業の計画策定に向けた取り組み方法、そして内容に関する内容を改善した。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	特になし	

アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 市役所職員と大学の関係者が多く、藤井先生もご存知な方が多かったため。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿		

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

Zoom ミーティング



杉田謙介

### ▶ 米軍の変化

現場に権限を移譲する代わりに、デジタル機器をもってもらおう



兵士の命を守るために  
運用を改善し、それを機能させるためにデジタル機器が必須

Zoom ミーティング



### ▶ 米軍の変化

現場に権限を移譲する代わりに、デジタル機器をもってもらおう



兵士の命を守るために  
運用を改善し、それを機能させるためにデジタル機器が必須

藤井 靖史